

「日々の理科」(第2606号) 2021,-9,-1

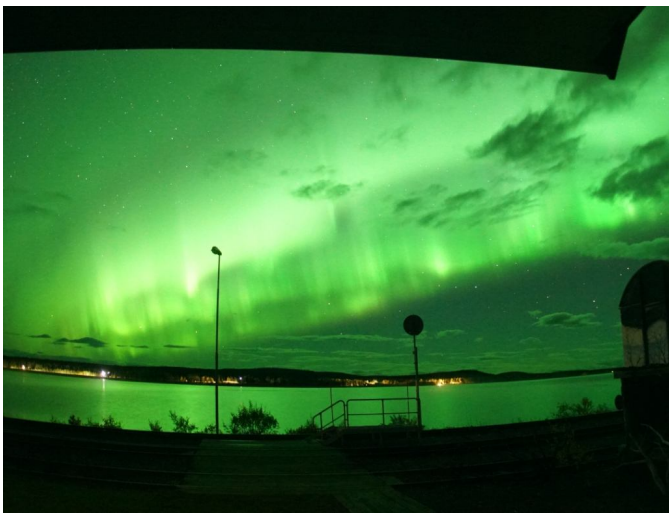
## 「秋のオーロラ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「オーロラのベストシーズンはいつ頃ですか」とよく聞かれる。私は「スウェーデンの北部なら、9月から10月が一番良いです」と答えている。そうは言っておきながら、自分自身は9月・10月に一度も現地に行ったことがないのだが……。



この時期、まだ湖は凍っていない。湖が凍ってしまうと、氷の上に雪が積もり、湖面へのオーロラの反映は見られなくなる。しかしこの時期は、湖に映るオーロラの写真を撮ることができる。もちろん現地で見れば、肉眼でも同じような光景が見られるだろう。



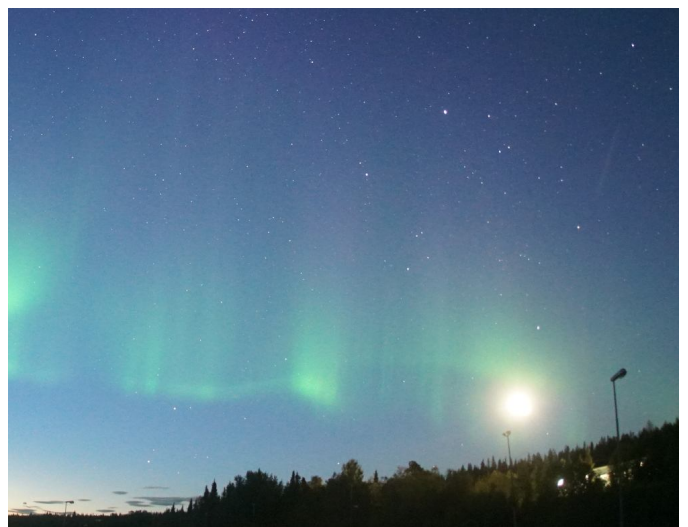
また、この時期はあまり寒くない。12月や1月は、確かにオーロラはよく見えるが、時に氷点下40℃まで下がる。もちろん日本に比べれば寒いだろうが、9月・10月は普通の服装で外で観望できるだろう。



写真はPorjus(ポルユス)の駅のホームから見た、北西側の湖である。この駅の駅舎事務室の窓際にデジタル一眼レフカメラを設置してある。ホームにある円盤のようなものは、列車を停車させるための標識だ。これを運転士に見えるように向きを変えておかないと、そのまま通過してってしまうのだ。



オーロラは非常に淡い光芒なので、一般的に月夜の晩は観望が難しいと言われる。しかし私は、月夜のオーロラが一番美しいと感じている。



写真は「満月とバンド・オーロラ」である。月に負けず、淡いカーテンを見せている。その上に五角形の「ぎょしゃ座」も見える。輝星は一等星のカペラだ。北極圏の役者が勢ぞろいした、すばらしい光景だ。